

平成28年5月24日 会頭記者会見 発言要旨

時事の話題

■景況について

上場企業各社の3月期決算が出揃ったが、原油安、円高、中国経済といった外部環境の変化が大きく業績に影響したようだ。原油安を背景に化学分野の業種などでは利益を押し上げた一方で、輸出型の企業では中国経済の減速や年明けからの円高が収益に反映されている様子が伺える。その影響はプラス・マイナスさまざまであるが、内閣府発表の1～3月期のGDP速報値に見てとれるように、これまで円安・株高を追い風としてきたアベノミクスの先行きに不透明感が表れている印象を受けている。また、訪日外国人観光客が増加傾向にある一方で、インバウンドの消費が伸び悩んでいる。円高の影響、中国政府の関税強化、購入対象が高額商品から日用品へシフトしていることなどが要因として考えられるが、訪日外国人の客層が富裕層から中間層へ移り、消費に与える影響が続くのであれば、事業者によっては戦略を見直すところもあるのではないかと。

そのような経済情勢の中で、政府は「ニッポン一億総活躍プラン」や「骨太の方針」、「成長戦略」の素案を取りまとめた。日本が抱える課題に対して、将来を見据え、網羅的に項目を並べた点を評価しているが、着実に実行に移していくことが重要である。企業や家計の不安感を和らげるとともに、経済成長や企業のイノベーションを促すためには、民間の活力だけでなく、政治のリーダーシップが必要だ。「伊勢志摩サミット」では、不透明さを増す世界経済を再び成長軌道に乗せるために、各国首脳が協調し、G7として前向きなメッセージを発信いただきたい。

京都商工会議所の動き

■次期3号議員の選任について

現在の議員の任期は本年10月末で満了し、11月から新しい役員・議員体制がスタートすることになり、今後150人の議員を選任する。業種・規模などを網羅するため、議員を選ぶ方法が3通りあるが、次期議員の選任の第一弾として、先程の常議員会において、次期3号議員22名を決定した。任期は3年間である。

■「京商 食の6次化推進支援ボード」の設置について

京都の農業は、京都の強みを生かして、商工業者や観光とも連携して京都ブランドによる付加価値の向上を図ることが重要であり、そのためには農産品等に対する商工業者のニーズを的確に生産者へと伝えるとともに、商工業者と生産者との連携や精度の高いマッチングを図ることが求められる。そこで、本所「食品・名産部会」に所属する企業を中心に、食の6次化推進に向けた支援ボードを設置し、商工業サイドから京都の農林水産業とのWin-Winの関係作りを進めていくこととした。京都府の農林水産部などと協力して、まだ知られていない農産品の食材活用など、京都の生産者と商工業者の結びつきを強める仕組みづくりなどを考えていきたい。

まず、第1回目の活動として、京都府の農業等の現状や取り組みについて関係機関等と情報交換する会合を6月に開催する予定としている。また、農業経営者などとの意見交換の場も今後設定していく。あわせて、セミナーや現地見学会・マッチング等に関係団体等と連携して実施し、京都の食の6次化・農商工連携の取り組みを活発化させていきたい。

記者からの質問事項

■三菱自動車工業の燃費不正問題による京都経済への影響について教えてほしい。

京都にはパワートレイン製作所があることから、民間の調査会社によれば、三菱自動車工業を

取引先に持つ事業所は多いようだ。現在、本所に相談がないものの、今後何らかの影響が考えられることから、5月20日付で本所内に「特別相談窓口」を設け対応にあたることとしている。

■今期の業績予想では為替水準を引き下げた企業が多かったが、最近の1ドル110円というレートをどう見ているか。今後、数年前のように下がっていく可能性はあると思うか。

輸出・輸入の両面を考慮すると、おおよそ1ドル105円～110円くらいが居心地よい範囲ではないか。アメリカ大統領選の際は円安になる傾向があるので、今の状況からは円高がさらに進むことはあまり予想していない。

■消費税率の引き上げについて先送りの動きがある中で、会頭はどう見ているか。

伊勢志摩サミットでの議論、あるいは参議院選挙を踏まえて、増税を先送りするかどうかを判断していくのではないかと。これまでより、消費税率の引き上げは社会保障に必要な安定的な財源を捻出するためであり、次の世代に過度の負担を強いることにならないよう、基本的には先延ばすべきではないというのが商工会議所の一貫した方針である一方で、熊本地震による影響が長期化すれば、被災者への負担感が強まり、経済への深刻な影響も想定される。個人消費が伸び悩むことが確実になるのであれば、延期する可能性は残されている。難しい局面にきていると思う。

■事業者にとっては消費増税への対応が必要だと思うが、その判断をいつまでにしてほしいか。

経営者の対応を考えれば、早ければ早い方が良いと思う。

■京都経済センターの進捗を教えて欲しい。また、課題にはどのようなことがあるのか。

事業者は公表している通り大成建設株式会社に決定したが、事業契約の締結に向けて設計内容等を調整しているところであり、確定次第、事業契約を締結する。本所は約3,500㎡の床面積を確保し、区分所有することとしている。準備が整い次第、事業に着手し、平成30年度中に完成できるよう、オール京都で力を合わせて、知恵を出し合って取り組んでいきたい。

共同ビルという性格上、各団体それぞれが契約を結ぶ状況になって、初めて経済センターの契約ができる。課題は、解体にあたって生じる産業廃棄物の処理と、各団体の細かい要望から全体構想に至るまでの最終調整である。「京都経済百年の計」にふさわしい京都経済センターになるよう、府・市・経済団体等で議論を進めていきたい。

■京都経済センターをどういう場所にしたいとお考えか。イメージを教えてください。

本所では「知恵産業の推進」を掲げて取り組んできた。入居する各団体の知恵を連携させ、新産業の創出、人材育成など、京都産業の活性化に結び付くような取り組みを経済センターの中で全て行われるようなイメージとして、私は捉えている。

■人材に関連して、採用や人材確保についての課題をお聞かせいただきたい。

一般的に言われている中小企業の採用難の状態は、基本的にはしばらく解消されないのではないか。解決策はなかなか見出せないが、長期的には、生産性を向上させるIoTやロボットの導入などが求められると思う。京都産業の特徴は、伝統産業が集積し、多様な業種・業界が存在していることである。京都の特徴をアピールし、就業の多様化を図り、京都らしい採用につなげていく長期的な努力がこれから必要ではないか。

以上

次期3号議員

(社名五十音順)

オムロン株式会社
関西電力株式会社京都支社
京セラ株式会社
株式会社京都銀行
株式会社京都新聞ホールディングス
京都青果合同株式会社
京阪ホールディングス株式会社
月桂冠株式会社
株式会社島津製作所
第一工業製薬株式会社
宝ホールディングス株式会社
株式会社トーセ
西陣織工業組合
西日本旅客鉄道株式会社京都支社
日本電産株式会社
任天堂株式会社
株式会社フクナガ
株式会社藤井大丸
株式会社堀場製作所
村田機械株式会社
ローム株式会社
株式会社ワコールホールディングス

(以上定数22人)

「京商 食の6次化推進支援ボード」の設置について

＜目 的＞

京都府内の食の6次化・農商工連携を積極的に進めることを目的に、農業を中心とした生産者と商工業者との連携事業を推進するため、本所内に「京商 食の6次化推進支援ボード」を設置する。

＜取組み＞

- 京都府内の農産物等の食材供給・活用を図るための課題検討・情報交換
 - 京都府内の食の6次化・農商工連携にあたっての商工業者のニーズ調査・把握
 - 京都府農林水産部等が実施する各種事業等に対するアドバイス
- ※京都府では、商工業者の実需ニーズに基づく農産物づくりに向けた仕組みづくりを進めるとともに、生産者と商工業者のマッチングシステムの構築に向けて、「京都農業経営力強化事業(マーケットイン型農業づくり事業)」に取り組んでおり、これら事業と連携して本支援ボードを運営する。

＜構成企業＞

(順不同)

- ◇株式会社井筒八ッ橋本舗
- ◇北尾商事株式会社
- ◇株式会社木乃婦
- ◇株式会社俵屋吉富
- ◇株式会社西利
- ◇株式会社野村佃煮
- ◇株式会社福寿園
- ◇本家八ッ橋西尾株式会社
- ◇株式会社増田徳兵衛商店
- ◇株式会社山一パン総本店

＜今後のスケジュール＞

* 年数回程度、京都府農林水産部等と連携し、商工業者の食の6次化、農商工連携を推進するための意見交換の場として開催する。

- ・ 第1回 6月開催予定 京都府農林水産部と情報交換会

(以降、関係機関や農業経営者等との意見交換会なども、随時開催)

* セミナー・交流会等を京都府農林水産部等と連携し、適宜共催する。